

天

たかく

元気

ひろがる

美

しいまち

多可町

町勢要覧 2019



CONTENTS

多可町の概要

多可町の軌跡

山田錦発祥のまち

杉原紙発祥のまち

敬老の日発祥のまち

天たかく 元気ひろがる 美しいまち 多可

「多」くの「可」能性のある町・多可町

多可町は、豊かで穏やかな自然に恵まれた、兵庫県のほぼ中央に位置する中山間の町です。

そして、その地域特性から生まれた世界に誇る3つの発祥をもつ町です。

900年以上の歴史を持つ手漉き和紙「杉原紙」

酒米の最高峰「山田錦」

国民の祝日「敬老の日」



多可町長 吉田 一四

わたしたちは先人から受け継いだ尊い文化・産業・精神を大切に守りながら、新しいトレンドを柔軟に取り入れ、さらなる町の変革・発展をめざして、堅実で確かな歩みを進めてまいります。

次世代を担う子どもたちから「住み続けたい町、住んで良かったと言われる町」であるために、また、ご来訪の皆様には「心を癒せるあったかい町」として親しんでいただけるように務めてまいります。

この町勢要覧を通して、多可町の魅力をより知っていただき、都市部と農村の交流拠点として、より一層親しんでいただけることを願っております。

多可町住民憲章

美しく豊かな自然に恵まれたわたしたちのまちは、長い歴史とよき伝統のなかで、個性ある文化や産業をはぐくみ、栄えてきました。

わたしたちは、ふるさと多可を愛し、お互いの理解とつながりを深め、みんなが主役のまちをめざして、ここに住民憲章を定めます。

- わたしたちは
- 1. 健康で心豊かにくらし やすらぎのあるまちをつくります
 - 1. みどりと清流を守り うるおいのあるまちをつくります
 - 1. 働くことをよろこび 活力のあるまちをつくります
 - 1. 学びを楽しみ 文化のかおり高いまちをつくります
 - 1. いのちと人権を大切にし 心ふれあうまちをつくります

町花・町木・町鳥

町花



のぎく



春蘭



ささゆり

町木



けやき



杉



ひのき

町鳥



キジ



多可町の「多」をもとに、
次の意味を込めています。

(緑色) …緑広がる大地

(赤色) …実り・創造・発見

豊かな自然との共生、躍動する人の姿を織りこみ、新しい時代への飛翔・多可町の飛躍と発展をイメージしています。

多可町は、平成17年11月1日に多可郡内3町(中町・加美町・八千代町)が合併して誕生した町です。兵庫県の東播磨地域の内陸部に位置し、北は丹波市、朝来市、東は丹波市、南は西脇市、加西市、西は神崎郡神河町、市川町にそれぞれ接しています。

東西13km、南北27km、総面積185.19km²を有し、直線距離で神戸まで約45km、大阪まで約70kmの距離にあります。

地勢的には、周囲を中国山地(三国岳、千ヶ峰、笠形山、竜ヶ岳、篠ヶ峰など)の山々に囲まれ、三国岳を源とする杉原川が加美区、中区の中央部を貫流し、笠形山を源とする野間川が八千代区の中央部を南流して西脇市において県下最長の加古川と合流して瀬戸内海に流れています。

気候は、瀬戸内気候の影響を受けて穏やかですが、中国山地の背陵地帯として内陸性気候の影響も受け、寒暖の差が比較的大きくなっています。

交通条件は、西脇市で国道175号と分岐した国道427号が多可町中区、加美区を縦断し、八千代区では県道西脇八千代市川線、多可北条線、加美八千代線が通り、中国自動車道滝野社ICや加西ICと接続しています。加美区と丹波市を結ぶ清水坂トンネルの開通により、北近畿豊岡自動車道氷上ICにもアクセスができます。

公共交通は、神姫バスの定期路線があり、コミュニティバスの運行も行っています。

交通アクセス



高速バスでお越しの方

[大阪から]JR大阪駅から中国ハイウェイバス西脇・津山行き(西日本JRバス、神姫バス)約1時間20分。滝野社IC下車。

[神戸から]JR三ノ宮駅から神姫バス西脇方面行き約1時間40分。西脇(アピカ)下車。

電車でお越しの方

[大阪から]JR大阪駅からJR福知山線谷川駅下車。約1時間20分。

[神戸から]各線三ノ宮駅からJR山陽本線加古川駅、JR加古山線西脇市駅下車。約1時間25分。

車でお越しの方

中国自動車道滝野社ICから国道175号・427号経由で約30分。

中国自動車道加西ICから県道24号線経由で約30分。

北近畿豊岡自動車道氷上ICから国道175号・県道86号線経由で約30分。



八千代南小学校・西小学校・北小学校が閉校し、八千代小学校として新たなスタートを切りました。



たくさんの公募の中から、多可町オリジナルの歌を制作。心温まる歌と共に、敬老の心を全国へ発信しています。



山田錦生誕80周年を記念し、2日間に渡るイベントを開催しました。日本酒の試飲会や安倍昭恵さんによる講演会などを行いました。



八千代区大屋と加美区山野部を結ぶトンネルが開通しました。安心して往来できる道ができ、生活の利便性が大きく向上しました。

平成25年

1月15日

3月21日

9月15日

12月21日

TBS系番組

「もももてナインティナイン」

多可のお見合い大作戦 **D**

多可町学校給食センター竣工

敬老のうた「きつとありがとう」完成 **E**

清水坂トンネル開通

平成26年

3月22日

山野部坂トンネル開通 **F**

平成27年

3月31日

中町幼稚園閉園 **G**

4月25日

杉原紙の里 展示・体験工房オープン

11月3日

多可町合併10周年記念式典

平成28年

3月31日

八千代南・西・北小学校閉校

4月1日

八千代小学校開校 **H**

9月15日

敬老の日制定50周年記念式典 **I**

平成29年

2月4日

多可町日本酒フェスタ **J**

2月5日

平成30年

10月22日

多可町役場新庁舎開庁

11月1日

多可町子育て世代包括支援センターアスパルきっず オープン



全国から集まった花嫁候補を、町民約3000人が出迎えました。セレモニーは播州歌舞伎などを上演し、盛況に行われました。



秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと、敬老の日制定50周年記念式典を開催しました。



地域に親しまれた中町幼稚園が、その長い歴史に幕を閉じました。園児や卒園生が園舎との別れを惜しまました。

多可町の軌跡

平成17年 11月1日 多可町誕生

平成18年

3月5日 「日本酒で乾杯のまち」宣言

10月1日 のじぎく兵庫国体・のじぎく兵庫大会

11月1日 多可町歌制定

平成19年

4月1日 多可町音頭制定

7月1日 防災行政無線全町運用開始

平成20年

6月15日 ラベンダーパーク多可オープン **A**

平成21年

4月1日 たかテレビ開局 **B**

平成22年

5月6日 加美コミュニティプラザオープン

平成23年

4月7日 キッズランドかみ開園

5月6日 八千代コミュニティプラザオープン

9月3日 台風12号襲来

平成24年

4月29日 まちの駅・たかオープン **C**

10月21日 特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会



5haの広大な敷地に2万株のラベンダーが植栽されています。シーズンは5月中旬から7月中旬です。



多可町の身近な話題を届けます。「たかテレビ見た？」の一言で、学校やご近所さんとの会話が弾みます。



山田錦のお酒や多可町の特産品を販売しています。観光案内をするコンシェルジュも常駐しています。

「私たちのまちはみんなで作る」という気概と郷土愛が、「天たかく 元気ひろがる 美しいまち」という基本理念を生み、多可町の魅力と一体感を作り上げてきました。多可町のまちづくりは、地域の誇りとたくさんの笑顔と共に。これまでも、そしてこれからも。

酒米の最高峰

やま だ にしき

「山田錦」 発祥のまち



世界中で巻き起こる日本食ブームに伴って、高級日本酒の消費が国内外で伸びています。

日本酒愛飲者の中で、一番人気なのが酒米の王様・山田錦を原料とした日本酒です。その山田錦が誕生したのは昭和11年。大正12年から「山田穂」を母、「短稈渡船」を父として13年の歳月をかけ数々の試験を積み重ね誕生し、母の名にちなんで「山田錦」と名付けられました。この母となる「山田穂」は東安田の山田勢三郎翁が発見したとされており、多可町が「山田錦発祥のまち」と言われるゆえんとなっています。

山田錦の生誕70年を記念し、平成18年3月5日、多可町は自治体として初めて「日本酒で乾杯のまち」宣言を行いました。

私たちの祖先は米を作り、米を原料として酒を造り、神に供え、五穀豊穰、家内安全などを祈念しました。日本人が日本の神さまにお願いするなら、「乾杯の酒」は日本酒です。これからも多可町産山田錦で造られた日本酒で乾杯をしましょう!!

私たちは、酒米「山田錦」が生まれた、
自然と文化を愛します。
私たちは、山田錦発祥の里として、
山田錦を守り育て、日本酒を広めるため、
ここに、「日本酒で乾杯のまち」を宣言します。

「日本酒で乾杯のまち」 声高らかに宣言!!

「山田穂」の
生みの親
山田勢三郎翁



▲(上)山田穂 (中)山田錦 (下)短稈渡船



多可町内には、村米制度と呼ばれる特定の蔵元との間で結ばれた酒米取引に取り組む地域があります。

品質の良い酒米を求める蔵元と安定した販売先を求める農家の思いが一致し、この制

度ははじまりました。お互いの顔を知り、干ばつや水害、また震災などの災害時にも互いに助け合うなど、単なる酒米の取引だけではない強いつながりが続いています。

「日本酒で乾杯」
私たちは、多可町を愛します。
私たちは、日本酒を愛します。

「日本酒で乾杯のまち」宣言



平成4年から続く「加藤登紀子日本酒の日コンサート」のイベントとして、毎年山田錦の田植えを実施。早乙女姿の参加者らが一本一本心を込めて手植えた酒米は、登紀子のお酒として親しまれています。



純米大吟醸『多可』

2017年には「山田錦発祥のまち」をPRしようと純米大吟醸「多可」を企画制作。多可町中区産の山田錦を100%使用し精米歩合は50%。「多可」のラベルは県指定伝統的工芸品の杉原紙を使用し、町内在住の書家ごとうみのるさんが揮ごうした題字を使用。



手漉き和紙

すぎ はら がみ

「杉原紙」 発祥のまち

播磨には、古代から優れた造紙の技術があったことが知られています。杉原紙はこうした古代の播磨紙の技術や伝統を基盤にして、杉原谷で生み出された和紙であると考えられています。

杉原紙が歴史上の文献に初めて登場するのは、平安時代の関白藤原忠実の日記「殿暦」で、永久四年（1116年）の条に『相原庄紙』と記載されている記事が初出となります。



独特の白さを引き出す川さらし

その後、鎌倉時代～室町時代には、公家や武家、大寺院など、幅広い層に爆発的に普及し、幕府の公用紙や武家の書状用紙、献上品や贈答品に使われるようになります。さらに、江戸時代には多様な用途に分化しながら、庶民の日常生活の中へも浸透していきます。このように、杉原紙は、日本を代表する和紙に成長し、中世期から近世期にかけての日本の紙文化の発展に大きな影響を与えた紙の一つであるといえます。

しかしながら、明治維新以降、産業転換が進み、機械漉きや西洋紙の普及に伴い、国内の手漉き和紙は衰退しますが、杉原谷においても大正期には紙漉き業は途絶えます。

時を経て昭和期、和紙研究者や地元住民の熱意と紙漉き経験者の技術を継承して、昭和45年に杉原紙を再興。昭和47年に杉原紙研究所が設立され、同58年には兵庫県指定無形文化財に指定されました。

文献資料に登場してから900年以上の歴史を有する杉原紙は、その源流と推定される古代の「杉原紙」から1300年以上続いてきた技術を継承しています。現在でも杉原紙研究所では手漉き和紙「杉原紙」を生産しています。



原料となる楮



紙漉きの様子

現在、多可町加美区では杉原紙の原料である楮の木を住民の手で栽培・収穫する方途を「一戸一株運動（各戸の庭で一株の楮を育て提供する運動）」として定着させるなど、町民自らの「心の誇り」として杉原紙の歴史と伝統を大切に守っています。

杉原紙製品

杉原紙は、2020年に「再興」50周年を迎え、産地としての誇りを確立するため、次世代を担う子ども達に、その魅力を伝えていきます。

杉原紙の里

また、平成27年4月にオープンした「杉原紙の里 展示・体験工房」では、杉原紙で作られた作品などの展示やグループ単位での紙漉き体験をしていただけます。卒業シーズンには、町内の全小学校が、杉原紙による手漉きの卒業証書作りを行います。

児童たちは、一様に緊張して表情をこわばらせますが、すき終わると、一気にほおが緩み、「手が冷たかったけど、頑張ってきた。自分だけの卒業証書ができてうれしい」と笑顔で話してくれます。手作りの卒業証書は、きっと生涯の宝物になることでしょう。



手漉き体験の様子



「杉原紙製の卒業証書は、筒ではなく平らなケースで保存したい」という子ども達の提案から生まれた卒業証書入れ

小中学校の卒業式で使用する杉原紙を使ったコサージュは、毎年、ボランティアが製作します

継承すべき精神

「敬老の日」 発祥のまち

多可町で誕生した「敬老の日」

八千代コミュニティプラザの玄関脇には、高さ約2メートルの石碑が立っています。前面には「敬老の日提唱の地」と刻み込まれ、敬老の日発祥のまちとして誇り高きシンボルとなっています。

「敬老の日」誕生秘話



厚生大臣(当時)が寄贈した
モニュメント

「敬老の日」の誕生秘話は、戦後の動乱期、昭和22年までさかのぼります。

当時35歳の若さだった門脇政夫さん(名誉町民)は、野間谷村(旧・八千代町)の村長に当選。2年後、初めて村主催の敬老会を開催しました。長い間社会に貢献してきたお年寄りに敬意を表すとともに、知識や人生経験を伝授してもらう場を設けることが目的でした。敬老会の期日は、農閑期で気候的にも過ごしやすい9月15日とされました。

翌昭和23年に「国民の祝日に関する法律」が施行。こどもの日・成人の日は祝日として挙げられたが、敬老の日は挙げられませんでした。そこで、門脇さんはこの年に開催した2回目の敬老会で、9月15日を「としよりの日」と定め、村独自の祝日にすることを提唱しました。

そして昭和25年、兵庫県は他県に先んじて9月15日を「としよりの日」と決めました。さらに、県や国に対して働きかけを続け、昭和41年、ついに「敬老の日」は、国民の祝日に加えられました。

平成15年から祝日法改正(ハッピーマンデー制度)により、「敬老の日」は9月第3月曜日となりましたが、多可町では現在も9月15日に敬老会を開催しています。

「敬老の日」の生みの親
故・門脇政夫さん(名誉町民)



私たちは、永きにわたり社会に貢献された高齢者を敬愛し、
その優れた知恵や経験を受け継ぎ、子や孫へと確実に伝えます。

(平成28年9月15日「敬老文化」のまち宣言より抜粋)

全国から多数の応募がある「おじいちゃんおばあちゃん子ども絵画展」



誇り高き伝統を受け継ぎ、町では毎年、喜寿敬老会、おじいちゃんおばあちゃん子ども絵画展を開催しています。

また、平成25年には敬老のうた「きっとありがとう」を製作しました。

歌詞は町内の小・中学生、高校生から募集し、寄せられた1,310点の中から選びました。曲は高齢者を敬う気持ちと温かい思いやりの心を次世代につないでいきたいとの歌詞にふさわしいものにするため

に、全国から募集しました。

翌年には、合唱用に編曲した多可少年少女合唱団が歌うCDを15,000枚製作し、敬老の精神を広げていこうと町内全世帯、全国の市町村及び県内の小中学校や幼保施設、福祉施設、報道各社などへ配布しました。多くの反響をいただき、「きっとありがとう」のメロディーは全国各地へ広がりつつあります。

♪おじいちゃん おばあちゃん
いつも見守ってくれて
とてもうれしい ありがとう♪



多可町の敬老会は日本一の歴史があります。

探多可町訪

歴史・文化

悠久の歴史を刻む文化財が、
貴方をいにしえの世界へ誘います。

受け継がれる歴史遺産



国登録文化財

極楽寺 仁王門と六道絵

八千代区中野間

天台宗の寺院。国の重要文化財である六道絵が保存されており、享保年間建立の仁王門は、国登録文化財に指定されています。



重要文化財

金蔵寺 乾漆阿弥陀如来坐像

加美区的場

頭部は、兵庫県でも数少ない乾漆造りによる奈良時代の作で、県指定文化財に指定されています。



県指定文化財



県指定文化財

東山古墳群

中区東山

16基で構成され、7世紀(古墳時代終末期)に造られた、当地域を治めた首長の墓です。東山1号墳は県内最大級の石室を有し、12号墳では切妻形陶棺が発見されています。



国登録文化財

本堂

楊柳寺

八千代区柳山寺

本堂と仁王門は国の登録文化財に指定されており、兵庫県指定文化財の平安時代の仏像も多く所蔵されています。



県指定文化財



貴船神社 うばらばら
雨散散 八千代区下三原



青玉神社 湯立て祭り 加美区鳥羽



荒田神社 秋祭り 加美区的場



貴船神社 りょんりょん 八千代区中村

受け継がれる風景

年間を通して古くから
受け継がれてきた様々な年中行事が
各地区で行われています。



ぽっぽこねんじゃ 八千代区柳山寺



安田稲荷神社 秋祭り 中区中安田

荒田神楽 中区安楽田



多可町
探訪

自然・風景

豊かな緑と四季折々の景色が、
貴方の心を癒やします。



見上げて
登っても
絶景！

千ヶ峰 加美区 標高 約1,005m

千ヶ峰の登山コースには、三谷コース、市原コース、岩座神コースなどがあります。

山頂 まで

▶ 約2.8km

⌚ 約1時間30分



妙見山 中区 標高 約693m

1合目から山頂までの表示があり、
わかりやすい登山道です。

山頂 まで

▶ 約3.4km ⌚ 約1時間50分



笠形山 八千代区 標高 約939m

勝負滝、竜ヶ滝などの滝を望み、天
邪鬼(あまんじゃこ)の力水で体を休
め、山頂をめざします。

山頂 まで

▶ 約2.4km ⌚ 約1時間30分

翠明湖 中区

糶屋ダムの建設によって出来た人造湖で、周囲には桜の木が植えられていま
す。ほぼ中央には翠大橋がかかっており、周りには1周約8kmの周遊道路が通っ
ています。湖を見下ろすハイキングコースも魅力。





多可町余暇村公園 中区牧野

芝生広場でピクニックや、広いアスレチック広場など家族みんなで楽しめます。園内には、カフェ「chattanaの森」や宿泊施設「ココロン那珂」も併設しています。

紅葉を楽しめる秋の余暇村公園では、もみじのライトアップ



恵まれた自然を満喫



竹谷山公園 八千代区俵田

四季の景観がすばらしい、多可十景と兵庫観光百選の一つに指定された溪谷の公園。



日本の棚田百選 いさりがみ 岩座神の棚田

加美区岩座神

約700年もの歴史があり、「農のピラミッド、天国への階段」と呼ばれています。

多可町の「道の駅」

道の駅
杉原紙の里・多可



加美区鳥羽

野菜や特産品販売のほか、レストラン「車留満」では、播州百日どりを使った定食が人気です。

隣接する杉原紙研究所では紙漉体験ができ、和紙博物館には貴重な和紙にまつわる文献も展示。

道の駅
山田錦発祥のまち・多可



中区岸上

日本一の酒造好適米「山田錦」発祥の地を冠し、山田錦の日本酒やスイーツを取り扱っています。

店内奥には囲炉裏の休憩スペースがあるほか、多可町の地場産業「播州織」の製品も、展示販売しています。

多可町
探訪

多可町の四季を楽しむ

春

- ◆ 徳畑天神社春の大祭
- ◆ 多可オープンガーデン
- ◆ 俵田の鯉のぼり



夏

- ◆ ホタル・梅花藻 ばいかも
- ◆ 曾我井ジュンサイまつり
- ◆ ラベンダーフェスタ
- ◆ 八朔祭り(糍屋稻荷神社)
- ◆ 多可町ふるさとの夏まつり




秋

- ◆ 観月会
- ◆ 秋の大祭
- ◆ 多可町ふれあいまつり
- ◆ 鍛冶屋金毘羅まつり



冬

- ◆ ご来光登山 
- ◆ とんど
- ◆ 厄神祭・戎まつり
- ◆ 杉原紙年賀状全国コンクール



多可町探訪

特産品



天船巻き寿司

マイスター工房八千代

きゅうりが巻き寿司の半分を占める、ちょっと珍しい巻き寿司です。『オーライ！ニッポン全国大会 食アメニティコンテスト』で農林水産大臣賞、他多数受賞。



とりめしの具 みつばグループ

播州百日どりのモモ肉を使用し、地産地消にもこだわっています。『優良ふるさと食品中央コンクール』で農林水産大臣賞受賞、兵庫県知事賞受賞、兵庫県認証食品第1号。五つ星ひょうご認証。

播州百日どり みのり農業協同組合

多可町の大自然の中、おいしい空気と水の中で育つ播州百日どりは、イノシン酸がピークに達するまで約100日間という時間を掛けて、じっくりと育てられています。



さばめし ふるさと工房夢蔵

鯖を朝早くから酢漬けし、寿司米は最適な地元産の米を使用しています。夢蔵自慢の逸品で、町内外を問わず大人気です。

また、調味料の配合に研究を重ねた7種の太巻きも、多くのリピーターに愛される商品です。



多可町文化会館(ベルディーホール)

温かい人間の交流、結びつきの社会をつくり出し、地域の芸術文化の振興施設として演劇、講演、大会等を行う事を主な目的として建設された多目的ホールで、平成2年7月竣工。ホールの収容人数は616席。他に最大300人収容の会議室兼リハーサル室を併設しています。

外観は大きく円弧を描いて重なり合う2枚の屋根が特徴をなしており、この屋根は周囲のやまなみにならい、ダイナミックなフォルムで自然と調和を図っています。

外壁のデザインも多可町の特産品でもある播州織をモチーフに、モザイクタイルを織物の糸にたとえ、色とりどりのパターンが重なりあって杉原川の豊かな流れを表現しています。

また本館の南東の角に建つ高さ30mの塔は、古来、芝居小屋などで「幟」を掲げたり、「檣」を上げて太鼓を叩きながら催し物の内容を周囲に知らせていたことに由来します。



加藤登紀子 日本酒の日コンサート



平成4年の加藤登紀子コンサートの際、「ベルディーホールの観客が気に入ったの。来年もまた来たいわね。」という登紀子さんの言葉を契機に、山田錦発祥の町づくりとベルディーホール自主公演事業がコラボし、取り組みが始まりました。平成30年度で26回目を迎えています。

那珂ふれあい館



那珂ふれあい館は、秀麗な姿をもつ妙見山(標高692.4m)の山麓にあります。

当館では、隣接する兵庫県指定文化財の東山古墳群をはじめ、町内から発掘された出土品の展示や、多可町の文化財についての調査、研究、啓発・活用を行っており、地域の歴史学習の拠点としての役割も担っています。

また、体験学習室、陶芸・七宝室では、歴史や伝統技術を学べる体験を行うことができ、研修室、談話室、ふれあい広場は、各種会議や憩いのスペースとして利用できます。

〒679-1105 兵庫県多可郡多可町中区東山539-3

TEL 0795-32-0685 FAX 0795-30-2730

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎週月・火曜日(ただし、第3日曜の週は、第3日曜日と翌月曜日)・祝日・年末年始



ここにあり！播州歌舞伎

日本三大地歌舞伎のひとつとされる播州歌舞伎は、今から約300年以上前にはじまった高室芝居が起源とされています。

播州歌舞伎は、東京、京都、大阪の大歌舞伎やほかの地歌舞伎とは違い、余技に演ずるのではなく、職業集団として各地を巡業しました。

長年、地方を巡業し、「面白くなければ、明日は呼んでもらえない」という厳しさの中で、観客の要求を柔軟に取り入れ、所作や科白、化粧等のすべてにわたり徹底的に客受けを狙った演技を追及してきたことが、播州歌舞伎の生き残るための術であり、特徴的な芸風となりました。



昭和63年、この地に根付く播州歌舞伎を「特色ある学校づくり」ととりいれ、郷土の伝統芸能を守ろうと、中町北小学校播州歌舞伎クラブが誕生。その後、播州歌舞伎のさらなる伝承活動を展開するため、平成6年に中央公民館播州歌舞伎クラブが発足し、播州歌舞伎最後のプロの一座であった嵐獅山一座から指導を受けながら外題や所作・化粧法の習得に努めてきました。

現在では中央公民館播州歌舞伎クラブが「中町北小学校播州歌舞伎クラブ」や地域の子ども歌舞伎教室「カブキッズたか」の子どもたちに演技指導を行い、地域をあげて播州歌舞伎の保存・継承に取り組んでいます。

多可町役場本庁舎 (2018年10月22日開庁)



新庁舎は、耐震性と機能性に重点を置き、住民の命と安全安心な暮らしを守る拠点として誕生しました。これまで分散していた各部署を集約し、ワンストップの住民サービスを提供するとともに、住民の皆さんに親しまれ愛される施設となるよう、多可町産にこだわった内装を随所に使用しました。杉原紙をはじめ、播州織や町内産木材が、庁舎に温かさや明るさを創造します。



多可町ブランドを生かした室内空間

特注の杉原紙をガラス材で挟み込んだ壁面や、ダウンライト、播州織を使用した室名札などで多可町らしさを演出。また、会議室の壁や議場などで多可町産杉を使用するなど、訪れた人を温かく迎える空間を創造しています。



窓口は利用しやすいローカウンターを設置。吹き抜けの玄関が来庁者を明るく迎えます。

〒679-1192 兵庫県多可郡多可町中区中村町123

TEL 0795-32-2380(代表)

開庁時間 平日 午前8時30分～午後5時15分
(窓口延長日)毎週火曜日午後7時まで
(日曜開庁日)第2第4日曜日
午前8時30分～正午



アスパル(健康福祉センター)内に、多可町子育て世帯包括支援センター「アスパルきつず」を開設しました。子育てに関する悩みや相談に対応し、妊娠期から子育て期にわたり切れ目ないサポートを行います。

また、施設内をリニューアルし、授乳室やキッズスペースなどを完備。子育て中の保護者や家族が気軽に利用できる施設として生まれ変わりました。

子育てするなら多可町一



妊娠期から子育て期まで安心サポート

赤ちゃんルーム(授乳室)やキッズスペースを完備。お子さん連れの保護者や家族が安心して利用できます。気軽にくつろげる空間として多目的のスペースもリニューアルしました。

〒679-1114 兵庫県多可郡多可町中区岸上281-51

TEL 0795-32-5121

開庁時間 平日 午前8時30分～午後5時15分

多可町子育て世代包括支援センター アスパルきつず (2018年11月1日開設)

天

たかく

元気

ひろがる

美

しいまち



多可町



町勢要覧 2019

CONTENTS

役場本庁舎・アスパルきっず

那珂ふれあい館・播州歌舞伎

特産品・ベルディーホール

多可町の四季を楽しむ

自然・風景

歴史・文化

発行/兵庫県多可町 編集/多可町企画秘書課
製作/株式会社サイネックス

